沖縄戦跡国定公園大度園地

Ōdo Notch

大度海岸　石灰岩の岩礁海岸…自然の水族館

大度海岸は典型的な石灰岩の岩礁海岸である。海岸を一望できる場所に立ってみると美しい海と陸の境界線に昔のサンゴ礁の名残である石灰岩が続いている。これらの岩の根本がえぐれていることに気づく。岩が侵食されてできた地形でノッチと呼ばれている。干潮時には大小の潮だまりが現れる。そこにはたくさんの生き物が住んでおり、まるで自然の水族館の様である。イノーを観察する親子連れ、シュノーケルやダイビングを楽しむ若者たち、いい波を待つサーファーなど様々な人々が海に触れ合いにやってくる。海の魅力や豊かさを感じさせてくれる自然の水族館の様な大度海岸にどの様な休憩所・トイレ建築が相応しいか考えた。

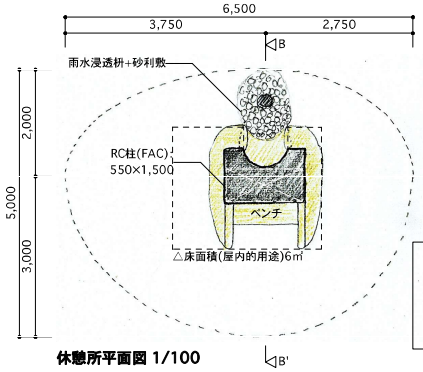
ノッチ -波食窪-　波風と生き物が削り出した天然の休憩所

サンゴ礁の海岸には特徴的な形状の岩がある。ちょうど満潮線あたりの位置でくびれている。このくびれはノッチ(波食窪)と呼ばれている。これはサンゴ礁が侵食されてつくられた形だ。侵食の原因も様々で、波や風による侵食と生物による侵食がある。かたい岩でも、これらの絶え間ない活動によって少しづつ侵食されているのだ。この波や風などの自然と、海辺に住む生き物たちが削り出した造形の窪みに身を屈めてみると、身体をすっぽりと覆われた様な心地よい安心感がある。沖縄の強い日差しや北風を遮ってくれる。大度海岸にはこのノッチの様な形状の休憩所が相応しいのではないかと考えた。

大度竜宮近くの琉球石灰岩のノッチ

ノッチの窪みは安心感のある天然の休憩所

休憩所　人が集う日陰を生み出すノッチ



休憩所平面図 1/100

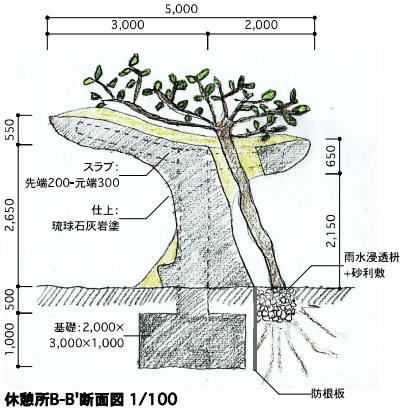
屋根面積：25㎡×4=100㎡
延床面積：6㎡×4=24㎡
構造：RC造平屋(FAC)
基礎：直接基礎(独立基礎)
仕上：琉球石灰岩塗り
屋根：ウレタン塗膜防水(X2)

休憩所はノッチの造形をモチーフにした一本の柱から4方に屋根が張り出す形状とする。柱の根本にはベンチを設置、袖壁と柱で北風から人々を守り、囲われたノッチ特有の安心感のある空間性を創出する。屋根はロート状の形で最底部にトップライトを穿つ。トップライトから屋根上に伸びるモモタマナを植樹する。雨水と落ち葉は自然と地面に導かれ水分と養分は土へと還る。表面仕上げは琉球石灰岩塗りとし時間の経過と共に海岸の風景に同化してゆく自然素材を採用する。

建築物劣化要因配慮 (FAC+かぶり100mm以上)

既存RC建築物が築27年程度で爆裂等の劣化著しいことを考慮し緻密で耐塩害性能に優れるフライアッシュコンクリートの採用とかぶり厚さの十二分な確保を行う。かぶり厚は土木学会発行の鉄筋コンクリート標準示方書を参照し屋根スラブの周辺部は最低かぶり厚さを100mm以上を基準とする実施設計を行う。

フライアッシュ



休憩所B-B'断面図 1/100

仕上塗りワークショップ

休憩所/トイレの琉球石灰岩塗り仕上げは地元の希望者(特に地元の小・中学生など子供達)を対象としたワークショップを実施します。
建築の建設過程で地元の人々に関わって頂くことにより建物の整備意図やデザインコンセプトを理解してもらい末長く建築を大切に使ってもらえるようになると考えています。ワークショップに合わせてビーチクリーンアップや研究者・専門家・関係機関を招いての大度海岸自然観察会など地元の自然を深く理解し、大切に守ってゆく気持ちを育むための学びの機会も併せて提供できればと考えています。

ワークショップイメージ

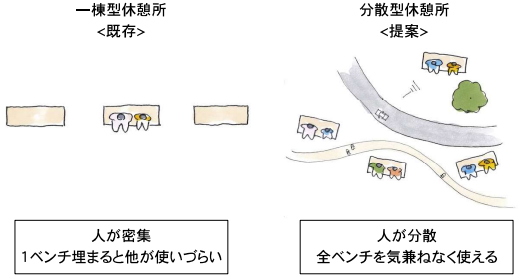
休憩所2より海を望む

自然の中の点景としての建築

天然の水族館のような大度海岸の主役は自然である。ここに新たにできる建築は自然と調和しながら訪れる人々を慎ましくサポートする役割を担うべきだと考えた。休憩所やトイレ然たる建築がそこに存在するのではなく、海辺の遊歩道を散策している途中に休憩所とトイレにふと出会うような配置計画を目指した。また、分散配置とすることで既存トイレ解体撤去後のスペースも有効活用し休憩所を配置することができる。現況ではトイレ前に密集して更衣などを行なっている様子が散見された。海側の眺望と開放感のある休憩所とは一味違う、海から一歩引きモモタマナに囲まれた、落ち着いた雰囲気の休憩所となる。

海側より休憩所を望む。風景の中の点景としての建築。

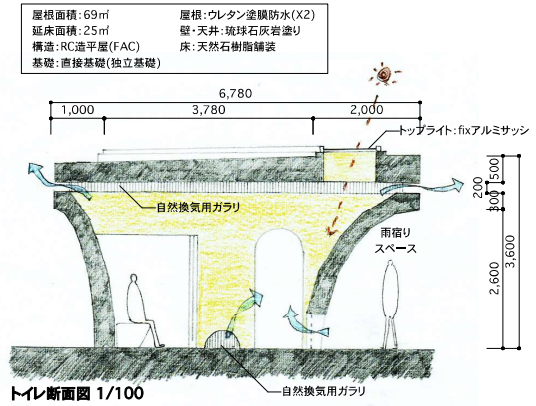
建築のソーシャルディスタンス



現地調査で既存休憩所の3つのベンチが有効に活用されていないことに気づいた。理由は1つのベンチが埋まると人々は他の2つのベンチに座るのを遠慮しているからだと考えられた。分散配置の場合はそれぞれのベンチに適度な距離感があるので他の人に気兼ねなく全てのベンチを有効に活用していただくことができる。また、コロナウイルスの流行によりソーシャルディスタンスや3密回避が社会的命題となっている。海浜公園は密集を避けたりフレッシュのための活動場所として人々の利用頻度が上がっている。建築側でも新たな生活様式に対応した分散配置とすることで、多くの人に安心してゆったりと大度海岸を利用して頂けるよう配慮する。

トイレ計画　光と風を取り込む

トイレは水・風・光に対する考え方に沿って岩を穿つように設計を行った。ノッチ状の迫り出した壁は利用者に日陰や雨宿りスペースを提供する。匂いが籠もらぬよう足元と頂部に換気口を設けることで常に自然に空気が入れ替わる。暗く陰気な空間とならないよう、屋根のトップライトからは曲面の壁に沿って自然光が降り注ぐ。足元に穿ったアーチ形の換気口からも間接自然光を取り込むことができる。



トイレ断面図 1/100

トイレ外観

トイレ内観